

臨床症状・検査所見

(1) 臨床症状¹⁾

発熱、倦怠感、体重減少などの非特異的な全身症状に加え、障害された血管により、臓器特異的な様々な症状があらわれる。起こりうる血管炎は以下に限定されない。

大型血管炎

- 高安動脈炎：頸部痛、めまい、左右上肢の血圧差、失神、下肢間欠性跛行など
- 巨細胞性動脈炎：側頭部の頭痛、視力低下など

中型血管炎

- 結節性多発動脈炎：触知可能な紫斑、網状皮斑、皮下結節、多発性単神経炎（感覚異常、筋力低下）、関節痛、筋肉痛、腎血管性高血圧など

小型血管炎

- 顕微鏡的多発血管炎：肺胞出血（喀血）、間質性肺炎（咳嗽、呼吸困難）、紫斑など
- 多発血管炎性肉芽腫症：膿性鼻漏、鞍鼻、中耳炎など
- 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症：気管支喘息、多発性単神経炎（感覚異常、筋力低下）、消化管出血、紫斑、関節痛など
- IgA血管炎：紫斑、関節炎、腹痛など

(2) 検査所見¹⁾

- CRP 増加、赤沈亢進、白血球数増加、血小板数増加、抗好中球細胞質抗体（ANCA）陽性
- 血尿、蛋白尿、BUN 増加、血清クレアチニン増加など

参考文献

1) 日本循環器学会. 血管炎症候群の診療ガイドライン(2017年改訂版)

ガイドライン等による対処法の補足 (対処法はP.37参照)

- 副腎皮質ホルモン剤の長期投与が必要な患者に対し、日和見感染予防が必要であるとASCOガイドライン¹⁾に記載されています。

参考文献

1) Schneider BJ. et al.: *J Clin Oncol.* 39: 4073, 2021

適正使用に関する
お願い

本資料にデータを
掲載している臨床試験

投与に際しての
注意事項

注意を要する
有害事象とその対策

臨床試験情報

Q & A

付録